

各関係機関団体の長
各病虫害防除員 } 殿

福岡県農林業総合試験場長
(福岡県病虫害防除所)

令和4年度病虫害発生予察注意報第2号(茶のカンザワハダニ)について

茶のカンザワハダニの2月5半旬調査の結果、表層の成幼虫数・寄生葉率が過去10年で最も高くなっています。

発生程度には場間差はあるものの、全ての調査ほ場で寄生が確認されています。今後、気温の上昇に伴い急激な増加が懸念されますので、ほ場での発生状況を早急に確認し、防除の徹底をお願いします。

注意報第2号

1 対象作物名：茶

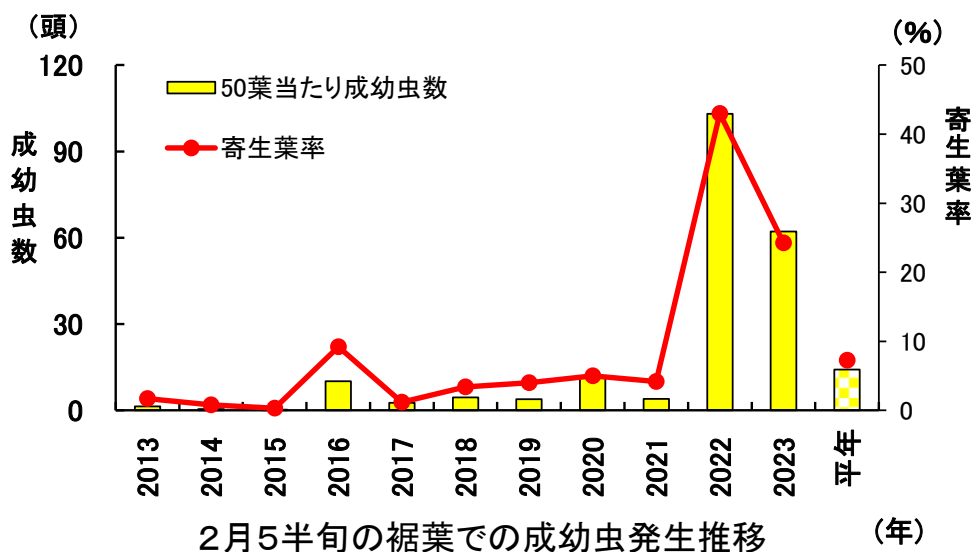
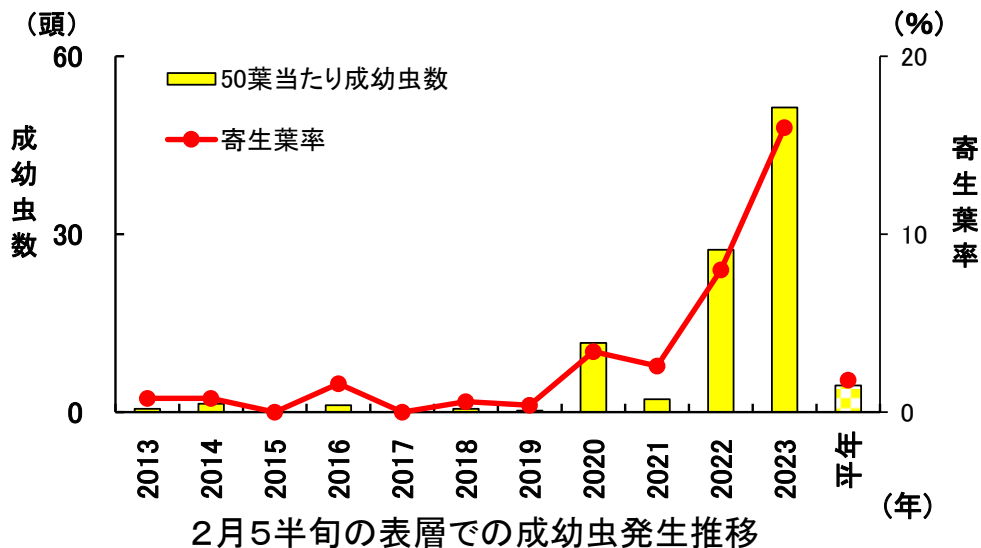
2 病虫害名：カンザワハダニ

3 発生量(現況)：多

4 注意報の根拠

(1) 2月5半旬調査の結果、成幼虫数・寄生葉率は例年あまり見られない表層では過去10年で最も高く、裾葉では過去10年で2番目に高い(図)。

なお、ほ場によって寄生状況に差があり、寄生葉率は表層で2～66%、裾葉で6～86%と幅が大きいものの、全てのほ場で寄生が確認されている(データ略)。



(2) 大宰府のアメダスの平均気温は令和5年1月で平年より0.5℃高く、2月1～23日は1.8℃高かった。2月23日の福岡管区気象台発表の九州北部地方の1か月予報によれば、平年より気温は高く、降水量は少ないと予想されており、今後の発生が増加すると見込まれる。

5 防除上注意すべき事項

- (1) 春期の防除適期は、孵化幼虫の発生初期である。例年は、平坦地で3月中旬、山間地で3月下旬頃であるが、すでに孵化幼虫が見られているため早めに圃の発生状況を確認し防除を行う。
- (2) 裾葉、表層ともに発生状況をよく観察し、表層の寄生葉率が2%以上の場合は、卵にも効果の高い薬剤で速やかに防除を行う。
- (3) 薬剤は寄生の多い裾葉の葉裏にも十分かかるよう丁寧に散布する。
- (4) 薬剤感受性低下を避けるため、同一系統薬剤の連続散布を避け、異なる系統の薬剤をローテーション散布する。

病害虫防除所のホームページでは、各種病害虫の発生状況を随時更新しています。発生状況の把握や防除の参考にご活用下さい。

○福岡県病害虫防除所のホームページへのアクセス

URL: <https://www.jppn.ne.jp/fukuoka/> または右QRコード

○Twitter (ツイッター) で定期情報や警報等発出のお知らせを始めました。

Twitterの本アカウント (福岡県農作物病害虫情報) へのアクセス

URL: https://twitter.com/PPDPO_Fukuoka または右QRコード



福岡県病害虫防除所
最新の病害虫発生状況

